

青少年環境教育交流セッション宣言（仮訳）

閉鎖性海域の環境管理

EMECS7/ECSA40

2006年5月12日

「私達の共有責任」

この宣言は、2006年5月9日～12日に、フランス・カーンで開催された EMECS7 における第2回青少年環境教育交流セッションに参加した、25人を超える学生と教師達による全体の合意であります。私達のグループは、フランス、日本、タイ、アメリカ合衆国から集った中学校7年生（日本の中学1年相当）のレベルから、大学卒業生、大学院生までの学生・生徒から構成されています。私達は、責任感と同時に謙虚な思いをもって、EMECS7のテーマである「私達の共有責任」の意識のもとで、今日の社会が抱える世界の沿岸海域の状況を改善するための、大切な目標を達成しようとする大人の世代の努力の成果を受け継ぐ、次世代の代表であることを理解しています。

私達は、地方自治体、中央政府、多数の NGO、あるいは民間の基金が、環境教育プログラムを通じて、私達の世代に働きかけている努力に敬意を払うものです。私達が EMECS7 に積極的に参加している事実は、これらのプログラムの成功を物語るもので、このことに心から感謝しています。

しかしながら、学校の正規の授業で、あるいは野外教育センターの特別プログラムで、現在行なわれている環境教育が、大人達の目標とする成果を生み、変化をもたらしているかどうかについては、なお慎重に判断する必要があります。環境教育の結果、沿岸海域の環境は本当に改善されているのでしょうか？

現在、世界各地で、青少年が意義ある継続的な野外活動経験に参加する機会は失われつつあります。私達は、学生も教師も保護、修復、保全すべき生態系システムについて、直接得られた知識を持たずに、環境教育プログラムに関わっている実状を心配しています。

また私達は、多くの国々で、学生の教科の学習を向上させたいという期待から、環境関係の科目を数学、理科より軽視する傾向があると懸念しています。しかし、私達は、環境教育を重視する EMECS は、今後、閉鎖性海域をより効果的に管理するため、情報を世代間で伝達しあう手段とする立場をとっていると理解しています。

ところで、私達の環境教育に対する視点はやや異なります。環境につき教える者にとって、環境教育は、単なる教科ではなく、情熱そのものなのです。環境につき習う者にとって、環境教育は、私達が自然界の一部であることを理解するための、開かれた扉なのです。その扉の外に目を向ける時、最初に目に入ってくるのは私達の校庭、家庭、そして地域社会です。しかしながら、私達は、しばしば熱帯雨林の伐採とか、地球温暖化のような世界の問題に心を奪われがちですが、これらの問題には直接の経験もなければ対策を立てる力もありません。このため、私達は、環境を生命の一部として受け止めることを忘れ、健康への脅威として恐れることを学んでしまうのです。

私達が、幸運にもそれぞれの国で受けることができた最善の環境教育活動は、私達を地域社会に深く根付かせるものでした。たとえば、フィールド・トリップや海岸の清掃プロジェクト、レクリエーション、あるいは外国語学習を通じて、環境教育活動は、ソム湾やオルヌ河口域と私達を結びつけているのです。また、私達は、ため池の保存活動をすることにより、地元に残る古い伝統を学んでいます。さらに、野鳥の数の変化を調査することにより、土地利用の変化がいかに沿岸海域に影響を与えているかを学んでいます。私達は、地元の海の汚染問題の化学的な解決法を探求しています。私達は、村の人々が津波の被害から復旧する手助けをしています。これらの経験は、生のデータ、近代的なコンピュータを駆使した GIS 技術、数学的な分析により、それらを理科、数学の学習目標に適應する形で取り入れられています。

私達の世代には、無限のエネルギーがあります。強い決意があります。遠大な夢もあります。私達の宣言で提案することはたったひとつですが、私達にとって一番大事なことで、それは、「どうか、これらの夢を実現する手助けをしてください」ということです。

どうか、地元の環境を体験するような教育プログラムを進める手助けをしてください。教師が、理科、数学と同様に歴史、文化、経済を教える場合、環境教育に関する多様な話題を生かして自然環境教育を行なうことのできるよう、支援してください。私達の経験では、地元の環境を学ぶことにより、一層興味が増し、環境との結びつきが深まり、友達とこれらの興味や結びつきを共有する意欲が湧き、また、家庭での話題ともなるのです。このことは、人が都会に住もうと、田舎に住もうと関係はありません。

私達人間は、環境に対する侵略者でも汚染者でもなく、自分たちが住む環境を構成する一員だということを感じ、理解できるような環境教育プログラムを積極的に進めてください。私達は、大人の皆さんの叡知と経験と技術から大きな恩恵を受けています。それら叡知と経験と技術を私達にも分け与えてください。私達は、個人では温暖化現象のような大きな問題に対して何もできませんが、皆で力を合わせれば、それぞれが地元の沿岸海域や集水域との関わり方を変え、世界規模の変化をもたらすことができると心から信じています。私達もまた、皆さんの目標達成のための手助けを惜しみません。

私達は、私達の世代に残してくれる沿岸海域の遺産を受け継ぐのですが、その際、環境破壊を最小限のものとして、この遺産を、大人の皆さんがこれまで享受したように、私達も同様に享受し、生命の息づく伝統として慈しみ、感謝できるように、最大の努力を尽くしてください。

私達は、津波災害の復興から学んだように、希望に満ちた生活を送ることができるような環境を創造する、環境教育をすることができるのです。これは、私達が共に力を合わせることであり、可能となるのです。

世界の沿岸海域の将来は、結局、「私達の共有責任」なのです。

フランス・カーン
2006年5月12日